

刊夕日一十月八



定部金... 五拾銭... 行金五拾銭... 日曜日の日休刊... 電話六三〇〇

星先生の全貌 (二)

衆議院議員 伊藤仁太郎

先生の生れは築地小田原町で、佃屋徳兵衛といふ、左官屋の子である。母は相州浦賀の漁師の娘、松子といふ人であつた。

徳兵衛が世を去つてから人の世話で、越後出身の醫者星泰順といふ者が入夫となり、夫から星姓を名乗る事になつた。

泰順といふ人は嚴格過ぎて、人の交際も殆んどなくそんな風だから、醫者の方は、少しも流行らなかつた。

母の松子は、快活な人で晩年まで、漁師の娘を、丸出してあつた。私共星門下の者が、玉川の別邸へ、訪ねて行くと、孫達が来たから、と言ふので、近所の人まで集めて、酒を振舞ひ興が乗つて来ると、自分も立上つて盆踊りをやつて見せる。

私共が歸る時には、池上本門寺前の、丹波屋といふ茶屋の所まで、送つて来て別れ際には、巾着錢をハタいて分けてくれ。『遠慮しなくてもいいよ。其代り、今の若さで、品川を素通りするやうでは駄目だよ。』と言つて大笑したものだ。

これがお婆さんの、星門下の若い者に對する、取扱ひ振りであつた。この調子で、皆が親しみ得たのがあつた。偶々、先生に對して、多少の不平を持つ者があつても、お婆さんに撫でられると、大抵納まつて了ふ。

此人の偉い所は、昔、窮迫して、大道で蠅蝶の壺焼賣をする迄になり、それも出来なくなつて、三人の子供は養ふ事が出来ぬから、二人すて、一人にしやうとなつた時、松子は男の子を残して、二人の娘を捨てた。大抵の母親は女の子を残したいのが人情であるが松子は女の子をすて、男

ノート

鮪や鰹鱈などの中 毒にはつ はぶきの葉を煎じだして飲むとよく効く

の子を残した。残されたのが、後の星である。

先生は、學問では、實に早熟の方であつた。横濱で高島嘉右衛門の英學塾に入り、一と通り學んだ外は、外國商館の書記になつて、英語の實習をした位のもの

行きませう、と言つて、引張り出す。その場合、何人附いて行つても、拒まなかつた。

其後、大阪へ出て、何禮之の開成所へ入つたが、こつたもののである。此間に、陸奥宗光との關係がついて

【朝】すまししるーうり、油揚げ

【書】むし肴かかれひ、鹽むし、龜甲なす

【晚】わんめうがー玉子どぢ

それから、陸奥の推舉で、和歌山藩の大學に、校長格で乗込んだ。いづれにして、學問では、早熟であつた。

驚く程正しいものであつた。尤も、若い時分には、盛んに遊んだ事もある。大藏省の屬官時代には、深川の陸奥の家から通勤して居たが月給を受取る、袋の儘、吉原へ持つて行つた位で、實に徹底してやつたものであつた。

それを拘らず、先生が斃れた時には、築地邊の待合が三日間、遠慮休業をした實に、思ひもよらぬ方面に迄、信望が伸びて居たものだ。

八月十二日庚戌友引満る、【白】望事達せんとして猛進する勿れ家内に風波か生じ困難に陥る【二黒】氣斗り焦せり涉々し【三碧】骨折りと功の無き不平の日なれと忍耐するは後日吉となる【四綠】營業繁昌の吉なるも火災水難及訟訴等に注意【五黃】新企時直しの念起る日病氣怪俄に注意【六白】金

【白】望事達せんとして猛進する勿れ家内に風波か生じ困難に陥る【二黒】氣斗り焦せり涉々し【三碧】骨折りと功の無き不平の日なれと忍耐するは後日吉となる【四綠】營業繁昌の吉なるも火災水難及訟訴等に注意【五黃】新企時直しの念起る日病氣怪俄に注意【六白】金

八月十二日庚戌友引満る、【白】望事達せんとして猛進する勿れ家内に風波か生じ困難に陥る【二黒】氣斗り焦せり涉々し【三碧】骨折りと功の無き不平の日なれと忍耐するは後日吉となる【四綠】營業繁昌の吉なるも火災水難及訟訴等に注意【五黃】新企時直しの念起る日病氣怪俄に注意【六白】金

談望萬事吉利あり【七赤】不時の禍を防ぐ可し【七赤】金談縁談等に不平の念あるも午後には吉にして調ふ【八白】纏れ混雜の爲に暫らく逢ぬ人に相談を掛ると云ふ凶日なり【九紫】營業取引や金談縁談等皆吉兆に行く大吉日

品質第一 電話二六八番 平搾乳所 平町・九品寺前

看護婦急派の求めに應じます 平町南町 平看護婦會 電話三〇七番

新 鯉節漬 魚問屋 店理代平命生本日大最優最 榮盛賀志 (三一二電) 目丁四平

玉屋洋品店 平町田町通電話六五六番

スガノヤ提灯店 電話九五番 愈々舊盆も近... ました御新佛の戒名 入提灯を御注文下さい

榮える一家

三名の軍人を出した 郡内四十五氏を表彰

一家より三名の兵役服務者を出した郡内左記四十五氏は近く陸軍省より表彰される

(平) 鈴木祐孝 菊地秀太郎 笹越万治郎 清水鐵三 小林安太郎 比佐信太郎 青木榮吉(植田) 八代康明 長谷川榮治郎 渡邊徳之助 出井徳藏 高木正明(四ッ倉) 長谷川寅活郎 小松巳之松(好間) 吉田水好 吉田春壽 叶多清(永戸) 合津音治 萩野傳太郎(箕輪) 小沼末

造(泉) 田山新五郎 山崎直之介 鈴木彦六 吉田壽市 吉田熊太郎(草野) 富田市平 新妻榮吉 宇佐美辰治(平窪) 小野與作 松崎治郎兵衛 鈴木政吉 小野久重(錦) 高木隆之助 山野邊丹治 星芳之助 赤津晴治 鷺繁一 金成謙治(大野) 西山惠一(夏井) 大和田藤三郎 阿部富夫 鶴沼常造 鈴木佐勇吉 木田彌作 志賀長太郎

植付不能

水田を視察

農林省技師來郡

石城郡小名濱町及び玉川村方面の植付不能水田は未だに十二三町歩を残して居る。是が状況視察の爲め本

一日農林省狩田技師が市島本縣耕地課長を隨行して來平直ちに前記町村に向つた

學校看護婦

實現可能性あり

第一に衛生室を

平町各小學校では學校看護婦を常置する福島、郡山、若松の三市を始め白河、三春内郷、湯本の各小學校が兒

童保健の上に好成绩を挙げつゝあるに鑑み來年度より是非常置したいと町當局に對し申請中であつたが實現の可能性があるので第一校では之が下準備の爲め近く十二坪の衛生室を設くべく目下縣に認可申請中である

庶民金庫が

低資を貸付

一名に三百圓以下

平信用組合庶民金庫では組合員に特別低利資金を供給する事となり來る十五日迄に希望者の申込みを受付ける事となつた取扱の要領左記の如くである

(貸付總額) 二萬圓 (返済期限) 昭和十年七月廿日 (利率) 年八分 (一組合員に貸付限度) 三百圓以下 (保證人) 三名以上又は連帶借用(返済方法) 月賦又は日賦

同窓會の奇觀

出席者四名

安積中學

十三日來平

磐中同窓會は昨日午後一時より母校會議室に開かれ決算報告、豫算編成並に今年度の事業に就いて種々打合せした出席者は僅かに新田目春松、山野邊庄吉、三森虎雄、山崎忠兵衛の四君で午後七時よりは谷口樓に懇親會を催したと

磐中野球部では本日安積中等校より來る十三日對戦したき旨の電話に接し直ぐに應諾同日午後一時より磐中

自轉車に乗り キャンプ生活

平商劍道選手が

磐梯登山に出發

平商業學校劍道部田中清、草野忠悟、志賀謙治、齋藤一夫、山田定、渡邊新平、若松一郎、新妻秀の八君は自轉車旅行のキャンプ生活を續け磐梯登山を行ふべく本日午前十時出發したが期日一週間の豫定であると

期日切迫して

掉尾の一振を

佐藤高等課長視察

愈よ肉迫戰

石城郡下の縣議補缺選舉も接迫し政民兩派夫々に掉尾の一振を試みんとして居る。是れが取締の爲め本縣

高等課長佐藤平吉氏は本日午前來郡横山平署長と打合せの上管内事情の視察を行つた

代議士(痴遊)伊藤仁太郎氏の

赤坂候補應援演説は(今十一日夜七時)

經濟更生の

指定町村を指導

石城郡下に於ける來年度經濟更生指定町村の實地指導の爲め本縣の川部技師及び五十嵐技師は左記日割にて指導を行ふと

八月廿日四倉 廿一日飯野(五十嵐技師) 廿二日渡邊 廿三日神谷(川邊技師)

成績の良い歡び

平第一校より磐中へ

入學した生徒達

平第一小學校より今年度磐中へ入學した八十名の第一學期試験の平均成績は頗る良く優三十一名、甲三十九

名、乙十八名、丙二名にて何れも此の喜を母校に報告する處あつた

海邊の便り

平第一臨海學校通信

第八信 八〇一〇

最後の夜は明けた。空は美しく晴れてゐる。何時もの様に汀にて新鮮な空気を呼吸し乍らラヂオ體操をした。今朝は特に元氣ある様に見えた。

午前の水泳は時の過ぎるのも忘れたかの様に泳ぎ廻つた。充分泳ぎ、充分焼いた八日間の水泳をべくべく日なのである。皆黒くなりたい。

いよゝ午後には水泳を早く仕上げ、班内の清潔整頓に努め、各自荷物の整ひ方等忙がしい。然し一生懸命

の結果綺麗に見違へる様になつた。午後五時三十分懐かしい宿舎を後にして停車場へ急いだ。

一同はかくし切れない嬉しさを面にたゞよはしてゐる。やがて汽車は着いた。あの洋々たる大洋に別れを告げることは何となく後髪を引かれる様である。然し八日ぶりであつた。その方も氣が急ぐ。

一同は多くさんお土産を買つて車中の人となつた。

× 平着六時三十分。黒ンポ一連は無事平の土をふんだお出迎ひの人々は多くさん居られた。さだめし今夜は波のりの夢か溺れた夢か? ではこれでお便りを打ちます。さようなら……

商品切手再使用は

嚴重に處罰される

平稅務署が各商店主に

警告を發す

最近平稅務署管内で商品切手の再使用をなす商店のある事を探知し防止策に苦心して居るが直接商店に就いて調べる以外適法無くまた再使用の脱稅行爲なる事を知らず汚損せぬもの、再使用は儲かると云ふ考へから公然と行つて居るので當局では商品切手再使用は稅法違反で最底三圓以上の罰金を科せらるゝ事を知らしめる方途と故意に再使用をなす者の嚴重取締りを行ふべく調査中である

自動車衝突

郵便局員に

石城郡勿來町本町十九勿來自動車會社運轉手小針有治郎(三)は九日午後一時半頃乗合自動車を運轉し同町字窪町地内を進行中通過した同町郵便局員星勝美(三)に衝突全治一週間の傷を負はした

夏の夜を狙ふ

賊に御用心

家人の就寝中が多い

最近盜難事件が非常に多く夏季は暑いためか戸締りがおろそかになり勝でそれにつけ込んで開け放しである窓から手を差入れてその傍にある品を手當り次第にぬすんだり家人が戸外で涼んで居る間に空巢を狙つたりするのにおほいが最近の手法はそれらの外に危険性を含んだ所謂ノビと稱する家人の

害を蒙つてゐるので女世帯などは大恐慌を來してゐる

氣の毒な女性を

蹂んで知らぬ顔

男の仕打を憤つて

認知の訴訟提起

平町仲間町七十一番地内田トシ(三)は腦を患つて以來發育不良に陥り一見十五六才位にしか見えぬ氣の毒な女性であるが昨年二月の或夜風呂貰ひに來た舊城跡二十二番地青木清(三)に暴行されて其胤を宿し昨年十二月十七日男子を分娩したるも其の後青木は無情にも顧見ないので此程男の仕打を憤り山野邊辯護士を代理人として平支部に是れが認知の訴訟を提起した、因に之が公判は來る九月十五日午前九時である

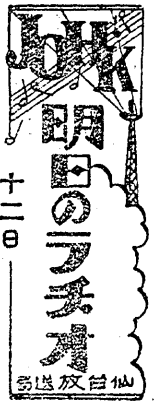
福島炭礦が

第二坑復活

現場と坑夫を

目下盛んに募集中

既報石城郡下各炭礦は最近市場の好轉に連れて送炭が間に合はぬ程の活氣を呈し夫々坑夫募集、公休日の減少等を行つて採炭に全力を



今晚も明日も 南西の風晴曇半し驟雨模様

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間お話し「楽しい夏の夜の遊び」
後六、二五 東北北海道産業講座「宮城縣柴田農林學校教授齋藤義一郎

明日の部

後七、三〇 講演
後八、〇〇 漫談「スタン」のホームラン」 里見義郎
後九、三〇 時報 ニュース 氣象通報 番組豫告
前六、三〇 趣味の歴史講

原壽々代 伴奏モアナグ
後二、〇〇 夏期講習「長唄のお稽古」土杵家彌七
後六、〇〇 子供の時間 管絃樂 東京ラヂオオーケストラ 指揮平野主水
後六、二五 産業講座「東北の畜産」盛岡高等農林學校教授草刈虎雄
後七、三〇 講演
後八、〇〇 但詠 栃木縣壬生町有志石川家美代吉
後八、三〇 落語
後九、〇〇 清元

幼兒危し

自動車に衝突され 腰部に負傷

石城郡川前村數山自動車店

十一歳の少年が

各所で賽錢泥を

平町銀治町六太郎二男柴田二郎(一)假名は昨年十月中十五丁目二十三夜尊堂の賽錢五十六錢を窃取した外賽錢泥専門に各方面を荒し廻つて居た事發覺目下平署で取調中

其後、パタリと

送金も音信もなく

子を案ずる 捜査願

石城郡好間村字小館居住坑夫五十嵐幸吉長男三郎(三)は昨年十一月より北海道小樽市八日町に日雇人夫として

存廢問題

回答少く 組合長が頭痛

既報濱三郡木炭同業組合の存廢問題は組合員二千二百名中回答を寄せた者は締切

御愛乗下さい シボレーに！ そは先驅者なり

第三校増築

材料を検査

平町では明十三日午後一時より役場會議室に於いて第三小學校増築臨時委員會を開き建築材料検査に就いて協議すると



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 演
山本英春 畫

第十三回 血に飢ゆる村正

短氣と短氣の衝突
自分の額が二番に下つてゐるのを見ると、資正は顔色を變へて

資「村正殿、昨日は確に私が一番で、此の通り免状も持つてゐるのにどういふ譯で今日は額が變つてゐるの

と云ふのを親父の資重が重「イヤ一旦一番と定められた物が急に二番に變るべき筈は無い、察する處其方が免状の偽物を書いたのだらう」

資「之は阿父さん、飛んでもない事を仰しやいます、何て私が左様な事を致しませう、全く私が一番に相違ございません」

傍らから弟子等も
○「之は若先生の仰しやる通り、現在私共が額を上げる處を見て居りましたが、若先生の第一番に上げました、どうして今日になつて之を變へたのでございませう」

夫を村正が聞いて
村「さては京都油小路の國重と云ふ奴、二年つづけて上一番であつたのを三年目に上二番に下りしを遺憾に心得、無斷に斯ういふ

致したと見える、若き者の立身出世を防げる憎き奸物」
と云ふかと思へば身の丈



六尺八寸、力並ぶ者無き程の村正、拳を固めて額の真中へ飛掛つて強く打てば、額は微塵に碎け、國重の剣

は下に落ちる、所へ丁度通り掛つたのが國重の弟子國義「ヤア無禮者、お師匠様の額を打碎き、鍔へ上げたる名剣を大地に落すとは奇怪至極」
と突然村正に斬つて掛るのを

國「何奴なれば左様な亂暴を働くか、一刀の下に斬つて捨てなければならん」
と、覺えの一刀掴み差し宙を飛んで駆け付けて来る雜賀明神前のお鳥居前、大音上げたる事にして

國「ソレ國重と村正といふ人の喧嘩だ、何方も刀鍛治だから五六本宛刀を持つて来た」
などと大變な噂をしてゐる奴が居ります。資正親子は自分達の事から斯ういふ騒動になつたから大きに心配だが、只ハラハラするのみでどうする事も出来ません。處へ「御免〜」と人を分けて飛込んで来たのは京都堀川の國廣と云ふ人、之は國重とも資重とも兄弟分になつて居る人で、兩人の間に間違ひが出来たと聞いて大きに驚き、取る物も取敢ず飛んで来たので

市原醫院

平町田町 電話一四四番

村「さては汝は國重と云ふ大馬鹿者か、我こそは天地間に其の名の鳴り響いたる鎌倉源氏山の住人五郎正宗の末定仙吾太郎村正といふ者なり、望みとあらば相手になる、サア切れ」
と罵つた。

だ、此の始末は必ず附けるから乃公に任かして呉れ、又村正と仰しやる方、貴方の御顔も立るからどうか劍を引いてもらひ度い」
と云ひながら着て居た羽織をバツと劍の上へ掛けた其の内に備前兼光、越中の則重なども馳せ來つて口を利いたから双方劍を引いたそこで兎に角兩人を真ん中にして相屋といふ料理屋へ連れて來て、事情を聞くと國重はそんな都合な眞似をした事は夢にもないといふ、では何者の所業かと詮議を始めた。

耳鼻喉專門

平町田町七〇番地
入院 應需
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

外務社員採用

初任固定給 月三十圓

二十五才以上男女を問はず
履歷書携帶左記へ面談。毎日午後

平町田町一七
レストランサロン方
仁壽生命平駐在 吉田仁三郎
電話三五二番

耳鼻咽喉科專門

氣管食道科

平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

醫

目科療診
○内臓外科 ○整形外科
○脳外科 ○皮膚科
○婦人外科 ○性病科
○一般外科

諸橋外科醫院

醫學博士 諸橋 鐵彌
平町新川町廿七 (電話四六四)

開

入院室 完備
手術室 完備

業